

令和5年9月14日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

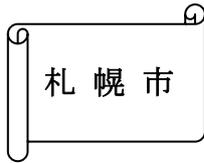
少子化対策特別委員会  
委員長 楯 石 光 弘

視察報告書

視察の概要は下記のとおりです。

記

- 1 参加委員 委員長 楯 石 光 弘  
副委員長 齋 藤 澄 子  
委員 木 村 美 輝、佐 藤 雄 一、我妻 久美子  
谷 祐 輔、都 甲 マリ子
  
- 2 視察日時 令和5年7月12日から  
令和5年7月14日まで 3日間
  
- 3 視察先及び視察内容  
(1) 北海道札幌市  
・札幌市立資生館小学校（札幌市子育て支援総合センター・資生館小ミニ児童会館）の現場視察  
  
(2) 北海道江別市  
・子育て支援センター「ぽこ あ ぽこ」の現場視察
  
- 4 視察目的 別頁のとおり
  
- 5 視察概要 別頁のとおり
  
- 6 所 感 別頁のとおり
  
- 7 経 費 8人 607,590円（随員職員の旅費を含む）



## ○視察目的

札幌市は北海道地方の石狩平野の南西部に位置し、北海道で人口が最も多い政令指定都市である。

明治初期から開拓使により計画的に開発され 1922 年に市制施行した。現在、札幌駅を中心に地下鉄網が広がり、駅を核に都市機能が集積している。札幌市時計台や札幌雪まつりなどには、毎年多くの観光客が訪れている。

札幌市では、平成 16 年に全国初となる小学校、保育所、子育て支援総合センター及びミニ児童会館が一つの建物に入った複合施設を設置した。館内には、各施設の交流が行えるよう共用のロビーを設け、また、各施設の代表者による運営協議会を設けるなど、複合施設のメリットを最大限に活かした運営を行っている。

本市においても、安心して子育てができる環境づくりのために、札幌市の取組を学び、今後の事業の参考とする。

## ○視察概要

札幌市は北海道地方の石狩平野南西部に位置し、北海道で人口が最も多い政令指定都市である。

明治初期から開拓使により計画的に開発され 1922 年に市制施行した。現在は、札幌駅を中心に地下鉄網が広がり、駅を核に都市機能が集積している。札幌市時計台や札幌雪まつりなどには毎年多くの観光客が訪れる。

札幌市では、ドーナツ化現象による都市部 4 小学校の児童数減少に伴い、学校統合による適正規模化による、全国初となる小学校、保育所、子育て支援総合センター及び、ミニ児童会館が一つの建物に入った複合施設を設置した。

## ○所感

20 年以上前から少子化に目を向け、早い段階から統合の話し合いをしてきた。H11.8 に札幌市学校適正化規模検討懇談会が開催され、統合の話し合いから 2 年で 70 回余りの説明会を開催した。

H13.8 には統合校設計費等の補正予算可決に至るまでのスピード感が凄く感じられた。H16.3.22 にはオープニングセレモニーを開催された。

複合施設には 4 つのコンセプトがあり、相互交流（世代間の交流を図るため各施設で連携）、開放（開放頻度を考慮した各室の配置）、環境（セットアップ方式、地割モジュール、グラウンドの芝生など）、安全（常時警備、通年 6：30～22：30. 監視カメ

ラ10台モニター室で監視、IDカードなど）などを柱に作られていた。

施設の地下に体育館があるだけでなく、室内温水プールも完備されており、防災対策として発電機、備蓄庫なども整備されている。また、施設の中には給食調理室もあり、他の学校にも給食を配給している。教室はオープン型普通教室となっており、開放的な授業を受けることができる。

施設の中には資生館小学校（約490名）、しせいかん保育園（120名夜間保育、障がい者保育など）、ミニ児童館（約110名登録すれば無料）、夜間中学校の星友館中学校（約120名）が入っている。また、子育て支援総合センターは令和5年3月31日をもって閉館していた。

スクールバスを6台（年間6000万）完備しており、利用率は52%となっている。施設の総額は約40億円かかっていた。

維持管理費でわかっているのは、電気代年間600万～700万円、水道料金、月20万円、バス代600万円などが最低かかっているとの事であった。

## ○政策・提言

少子化により、学校の統合は必要不可欠事でもある。丁寧な説明と根気よく何度も説明会を開く事は石巻市としても、学んでいかななくてはならないと思う。また、施設は使いやすく子供たちが安心して通えるようにしなくてはならない。

但し、石巻市として新しく複合施設を設置する場合には、維持管理費が膨大な金額にならないように検討が必要である。



## ○視察目的

江別市では、「子育て支援センター（ぼこ あ ぼこ）」を設置し、0歳から小学3年生までの児童と保護者が自由に遊び、他の家族と交流できる場を提供している。また、子育て支援コーディネーターが子育てに関する情報を提供したり、子育てに関する様々な相談を受けている。

本市においても、安心して子育てができる環境づくりのために、江別市の取り組みを学び、今後の事業の参考とする。

## ○調査概要

北海道江別市『子育て支援センター「ぼこ あ ぼこ」』の現場視察について、子育て中の家族が市内中心部のショッピングセンター内に気軽に利用できる施設として設置された子育て支援センターの利用状況、効果について調査を行った。

### ぼこ あ ぼこ とは(名称由来)

「ぼこ あ ぼこ」は音楽の表現用語で「ゆっくり」「ゆったり」という意味をもつ。子育て支援センターの愛称考案として、こどもの成長が皆同じではないという事を前提に、あせらず、その子らしく、たまにはのんびり子育てができるような場所でありたいという想いが込められているとのこと。(市民公募)

### 【江別市の概要】

江別市は、北海道の西部、石狩平野の中央に位置している。市の南西部には、自然を満喫できる世界有数の平地原生林である野幌森林公園が広がっており、野幌森林公園から北東側江別市街地に連なる一体は「野幌丘陵地」と呼ばれ、火山灰埴土地帯の肥沃な土壌に恵まれている。

丘陵地の周辺部は、主に泥炭土が広がる低地帯で歳月をかけた土壌改良によって耕地化され、道央の重要な食糧生産地帯となっている。また、札幌市の東に隣接しており空・海の玄関口である新千歳空港や石狩湾新港にも近い。



【江別市と石巻市との比較】

	北海道江別市	宮城県石巻市
人 口	118,785 人	135,724 人
世帯数	59,236 世帯	62,277 世帯
面 積	187.38 km <sup>2</sup>	554.6 km <sup>2</sup>
人口密度	634 人/km <sup>2</sup>	243 人/km <sup>2</sup>
子育て支援センター数	7 か所	12 か所+2 か所
合計特殊出生率	1.08	1.26 (R2)

【施設の概要】

名 称	子育てひろば ぽこ あ ぽこ
開 設	平成25年12月21日
設置経緯	※少子化対策の協議の中でこのような場の必要性が提案された
場 所	北海道江別市野幌町10番地の1 <u>イオンタウン江別2階</u>
施設面積	約620 m <sup>2</sup>
運営主体	江別市 (直営)
開館日時	月曜日～日曜日 9時30分～17時30分
対 象	0歳から小学3年生まで (図書コーナーは小学6年生まで) の子どもとその保護者 (子どもだけの利用は不可)
そ の 他	地域子育て支援拠点事業を実施する子育て支援センター 利用は無料 (市外の人も無料) ※市外の方からは利用料を頂いた方がいいのではという意見は多くあったが、この場所を江別市の広告塔として、移住定住のPRポイントとして活用していこうという市長の思いから無料に 会員登録制 (登録は無料)



受 付



メインフロア



大型複合遊具

【特 色】

○商業施設内（イオンタウン）に開設する子育てセンター

※子育て支援センターの場所を選定している機に、たまたまいオンタウン内の大型店舗撤退が重なったことにより候補にあがったとのこと。その際のネックとなる賃料に関してはイオンタウンに店舗を貸している大家（地元の方）との直交渉により決定。大家が江別市における子育て支援の必要性に賛同してくれたため非常に安価で借りている。（月 20 万円ほど）

○商業施設内に開設することから、ほぼ年中無休で開館

○併設している専用ルームで、リフレッシュに特化した一時預かりを実施

○まちなかにあるという立地場所や商業施設内にあることなどの利点を活かし、子育て世代に対し多様な支援（働きかけ）を行う

【運営体制】

○非常勤職員（保育士等）を平日は 3 名、土日祝日は 4 名を配置して運営

○利用者支援専門員（子育て支援コーディネーター）が 1 名常駐

○受付（2 名体制）、清掃業務は委託

○併設している託児ルームは市内の子育て支援団体が運営（補助事業）

【利用状況】（平成 25 年 1 2 月 2 1 日～令和 3 年 3 月 3 1 日）

		H 2 5 12月~	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4
会員 登録数 (新規)	市 内	4,248	2,039	1,194	1,108	941	946	827	605	763	1,014
	市 外	2,417	7,359	5,902	7,571	6,018	5,299	4,765	1,647	1,898	5,215
	計	6,665	9,398	7,096	8,679	6,959	6,245	5,592	2,252	2,664	6,229
利用者数	市 内	24,414	51,357	39,942	36,464	32,347	32,413	30,148	17,432	22,326	31,105
	市 外	8,274	41,463	44,734	55,783	52,959	51,068	43,783	16,319	15,189	36,346
	計	32,688	92,820	84,676	92,247	85,306	83,481	73,931	33,751	37,515	67,541
平均 利用者数	平 日		212	175	193	167	170	151	96	97	141
	土・日		363	352	397	390	386	370	198	182	299

【主な事業内容】

●基本事業イ子育て支援センター事業)

①あそびと交流の場の提供

- ・室内でものびのびと体を動かして遊べるように大型遊具を設置
- ・0 歳から小学生まで楽しく安全に楽しめるよう、年齢に応じた遊具やコーナーを設置
- ・安心安全のため、職員（保育士等）が常駐し遊びを見守っている

②子育てに関する相談

- ・平成 27 年 7 月より利用者支援員（子育て支援コーディネーター）を配置し、子育てに関する相談や子育て情報の提供を行っている
- ・定期的に助産師相談日を設定し、乳児の計測や妊産の相談に対応している

## 子育てサービス利用者支援事業（子育て支援コーディネーター）の概要

### 【事業開始の経緯】

平成 27 年 4 月から子ども・子育て支援新制度が開始。子ども・子育て支援法において身近な場所で支援を行う体制づくりを、市町村の実施する事業として規定した。当市の「えべつ・安心子育てプラン（子ども・子育て支援事業計画）」においても推進する事業として位置づけ、平成 27 年 7 月 1 日から子育てサービス利用者支援事業を実施した。

### 【事業の目的】

子ども及びその保護者等が、教育、保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、身近な場所において子育て情報の収集と提供を行うほか、子育てに関する相談に応じた助言や関係機関との連絡調整など必要な支援を行う。

### 【業務内容】

- ①子育てサービス情報の提供、相談業務
- ②子育て世帯包括支援事業（子育て世帯サポートえべつ）
- ③周知活動（R4 年度から実施）

### 【職員体制】

- ・子育て支援コーディネーター4名（保育士）
- ・勤務はシフト制（週4日勤務）

### ③子育てに関する講習会等の開催

- ・子育て世代への知識発として、子育てをテーマにした講習会、各種講座を開催
- ・親子で楽しめるイベントやボランティアによる絵本の読み聞かせも定期的を実施

### ④子育て情報の提供

- ・子育てに関するイベントや、幼稚園・保育園情報をはじめとする様々な子育て情報等をひろば 内に掲示

### ●有料託児サービス（託児ルームきらきら）

- ・保護者の子育て負担の軽減（リフレッシュ）を目的とし、ひろばに隣接した有料の託児サービス（一時預かり）を実施
- ・対象は6か月～就学前児童
- ・利用料は1時間300円、利用時間は最大3時間まで
- ・平成26年度からは、市内企業と連携して「リフレッシュ事業パートナー制度」を開始。託児利用者がリフレッシュを図るため美容院や飲食店などを利用した際、割引にサービス等が受けられる制度を行っている

●企業との連携

①市内企業の PR パネルの掲示

経済部と連携し、ひろば内に市内企業の PR パネルを掲示 掲載料は、玩具や施設の備品として使用している（掲載料 1 か月 3,000 円）

②企業講習会の開催

市内の企業や事業者が子育て世代を対象に、PR やモニターを行う場として、企業主催のイベントや講習会等を開催（施設使用料は無料）

企業パネル

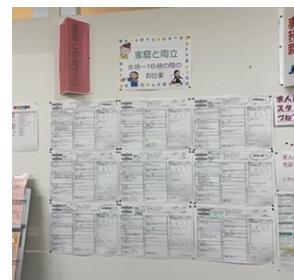


●就労支援

○求人情報等の提供

子育て世代の就労支援を進めるため、ハローワークや隣接する「まちなか仕事プラザ」と連携し、求人情報の掲示等を行っている

求人情報掲示



●その他

整備に当たり、平成 25 年度子育て支援対策事業費補助金（区分：子育てのための拠点施設整備事業）の交付を受けている。（補助金額 5,591,000 円）

【所 感】

北海道江別市における「子育て支援センターぽこあぼこ」は、市内の子育てにおける包括的支援の基幹的役割として勢力的に取り組みされていた。石巻市と比較した際に、子育て支援の基本的な機能（相談機能、情報提供機能、子育て世代への知識啓発機能等）としては、本石巻市の支援体制も非常に活発であり、遜色がないだけでなく、アウトリーチにおける相談対応機能は石巻市の方が進んでいるのではという印象を受けた。一方で、江別市の取り組みが非常に良いと考えさせられた点は、やはりイオンという市民の身近な日常の中で展開させていること『暮らしの中に溶け込んだ支援』を実現できていることだと感じた。この『暮らしの中に溶け込んだ支援』により“わざわざ相談に行く”というハードルを大幅に下げ、より小さな芽(課題)の段階から支援者が関わりを持てるという点は、子育て支援だけに関わらず、様々な支援において今後目指すべき形ではないかと気付かされた。

【提 言】

上記所感とも重複するが、石巻市には『暮らしのなかに溶け込んだ支援』という概念の導入と推進を提言したい。

現状、日本の子育て世代(現役世代)の生活時間を国際比較で見ると男女とも総労働時間が最長となっており、時間的にはすでに限界まで「労働」しているという特徴が示さ

れている。時間貧困という言葉もあるが、現在の「時間の無い子育て世代」に対して、受動的な相談窓口のように、足を運んでもらってはじめて課題や悩みを解決できる体制だけでは、今後は必要な人に支援を届けることが難しくなってくるということが考えられるため、今回の江別市のように、単純に支援員だけがアウトリーチしてだけでなく、システムや体制ごと市民の暮らしの中に溶け込ませていくといった取り組みの必要性を感じる。石巻市内でも子育て支援団体によるショッピングモールでの出張子育て支援イベントが始まっているが、このようなイベントの取り組みをより展開していくとともに、子育て分野だけでなく相談支援を行う多分野（就労、介護、福祉等）連携で『暮らしのなかに溶け込んだ支援』の有用性を協議することからはじめてもらえたらと提言し今回の視察報告とする。

## お問い合わせ

---

---

石巻市議会事務局 議事調査係

〒986-8501 宮城県石巻市穀町14番1号

Tel: 0225-95-5080（議会直通）

Fax: 0225-96-2274

Mail: [assesc@city.ishinomaki.lg.jp](mailto:assesc@city.ishinomaki.lg.jp)